

【パブリックコメント実施結果について】

岡崎市歴史的風致維持向上計画（第1期）の最終評価（案）及び第2期計画（案）に対する意見と市の考え方

【概要】

パブリックコメント募集期間：令和7年12月8日（月）～令和8年1月8日（木）

意見提出方法：電子申請総合窓口2件

提出人数：2人

意見件数：2件

※いただいた御意見は趣旨を損なわない程度に要約しています。

No.	意見の概要	市の考え方
1	<p>第1期計画は、岡崎城及び城周辺の整備・発展をみると、高い実現性と良好な外部効果を生んだと評価される。</p> <p>第2期計画では、「点」の整備から、東海道（現国道1号）や矢作川沿いの道路（現県道248号）周辺の歴史的景観を形成する、「線」の整備へ転換することが望ましい。</p> <p>また、イベントや運営は、適切なルールの下で「国内の」民間に開放・民営化し、投入資源を振り分けるべきである。重点地区以外においては、市はルール策定・監督の役割を担い、過度な官製化を避け、民営化することにより、市民・民間の参加を促進する方向が適切である。</p> <p>さらに、岡崎が歴史的正当性を有する都市であると内外に示すため、徳川家・松平家ゆかりの歴史を持つ周辺・遠方都市との連携も視野に入れるべきだ。</p>	<p>松平氏・徳川家ゆかりの周辺・遠方都市との連携について、第3章「3-3. 歴史的風致の維持及び向上に関する基本方針」の「(4)歴史的風致の維持向上に関する方針」に追記しました。</p> <p>また、「点」から「線」への整備の転換や公民連携などを踏まえ、本計画で定める各事業を、関係各所と共に取り組んでまいります。</p>
2	<p>第2期では「観光施策との連携」と「市民の参加機会の提供」を重視されたい。コロナ以降希薄になった歴まちと観光の結びつきを復活させるため、観光PRと合わせ、学芸員による岡崎城発掘報告会等のシンポジウムの継続的な開催を望む。シンポジウムの開催は、市民の歴まち認知度の向上にもつながると考える。</p> <p>また、「まるや八丁味噌土蔵の利活用」を提案する。QURUWA 戦略の波及効果に習い、八丁往還通りの無電柱化や美装化といった公共投資による波及効果を見込み、所有者等の意向を確認されたい。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、本計画で定める各事業に取り組んでまいります。</p>